

様式③

提出日 2020 年 1 月 17 日

2019 年度 琉球弧研究支援 報告書

研究テーマ

「八重山諸島の希少生物のロードキル問題と地域の対策活動の現状」

氏名：石川琉人 伊波翔雅

所属学部学科：人文学部 こども文化学科

I. 初めに

沖縄県は日本の中でも特に生物多様性が高い場所であると言われているが、その中でも西表島は手つかずの大自然と、イリオモテヤマネコやセマルハコガメなどの絶滅危惧種や固有種が多く存在している場所であり、現在は世界自然遺産の候補地として知られている。しかし、世界自然遺産候補地として注目を浴びる反面、現状の課題が浮き彫りとなった。その課題の一つが希少生物のロードキル問題、いわゆる生きものの交通事故である。公共交通機関も少なく、島内の移動の殆どが自動車と限られている西表島で、世界遺産候補地として注目を浴びる以上、この課題は急速に解決しなければならない。そこで、現在島内で起きているロードキルの実態、島民の問題に対する意識がどれくらいなのか気になり、このことについて研究するに至った。

II. 研究の目的、動機

この研究を行うことで島民や島民以外の人にロードキルの現状の把握、また、ロードキル問題の対策活動を島民だけでなく、多くの人に知ってもらうことで生物保全の重要性を再認識してもらい、希少生物を守る活動に繋がることを目的としている。

III. 研究方法、地域、期間

まずアンケートを取り、地域住民のロードキルに対する意識を調査した。フィールドワークは、西表島内の県道に車を走らせ、イリオモテヤマネコの交通事故防止の標識や看板の設置数や取り付けられている場所に特徴はあるか、またどんなものなのかを調査した。最後は、島内にある資料館や野生生物保護センターを訪れ、施設の職員にロードキルの現状やその対策などの話を伺った。

研究対象地域は竹富町西表島で、期間は9月2日～9月4日までの3日間の予定だったが、台風接近により、島内での調査は予定より大幅に変更し、2日目の夕方に島を出て石垣島に戻った。その後は、県立図書館やインターネットを利用し情報を集め、参考にできる資料を探した。

IV. 結果

①アンケート結果

アンケートは、宿泊した集落内のスーパーに協力してもらい、スーパーに訪れたお客さん15名にアンケートを実施した。アンケート結果から、イリオモテヤマネコを実際に見たことがあるという設問に対し、あると答えた人は2名だけであった。

イリオモテヤマネコが事故にあうのを見たことあると答えた人はいなかった。ヤマネコが事故にあっていることをどう思うかという設問では、残念だと思う、可哀想などといった嘆きの声が上がった。

交通事故を減らすためにどういったことに気を付けるかという設問では、運転に気を

付けるのはもちろんのことロードキルに対する意識を高めていく必要があるという声が上がった。

世界自然遺産登録に関しては賛成の声が多かった。

②ロードキルの現状と対策

● 現状

白浜を起点とし南風見を終点とする県道 215 号線が島のメインストリートとなっており、長さは約 54km、沖縄県で一番長い県道である。制限速度は 40km/h、集落内は 30km/h となっている。集落内は街灯が設置されているが、集落を出ると街灯はほとんどなく、自動車のライトだけという状況になる。イリオモテヤマネコの事故件数は統計開始の 1978 年から 2018 年 3 月までの累計では 80 件、そのうち死亡したのは 76 頭である。毎年、上下はあるものの全体的にみると事故件数は上昇傾向にあり、2018 年には過去最高となる 9 件を記録した。2019 年について現在確認できる情報によれば 12 月 11 日の事故で 4 件となり昨年よりは減少している。

ヤマネコを含む希少生物の交通事故は観光客より、道になれている島民の方が事故を起こしていることが分かった。

● 対策

島民による事故が多いという結果から竹富町は、石垣島から警察を西表島に派遣させ、定期的に検問を行い、島民または観光客が運転中にスピードを出しすぎているかチェックしている。また、島に設置されている西表野生生物保護センターでは、過去の日撃情報や目撃された個体を写真付きでまとめたマップの掲示、ヤマネコの生態や特徴を知ることのできるクイズなどを行っている。また、夜間パトロールや安全運転の普及活動、道路の見通しを良くしヤマネコが道路周辺に近づかないように草刈りをし、道路の下にアンダーパスというトンネルを設置しておりヤマネコが道路を安全に横断できるようにしている。

さらに見通しが悪い道路や、スピードの出しやすい直進道路、ヤマネコの日撃情報があった場所には看板や標識を設置している。

島にはセンターが運営する交通事故が起きてしまった場合の 24 時間対応のヤマネコ緊急ダイヤルがある。また、目撃情報を寄せる専用メールアドレス、ホームページも設置されておりヤマネコの現状把握、管理を島民と一体となり努め、毎月の日撃情報をまとめたイリオモテヤマネコ運転注意マップを発行し注意喚起を促している。

今後、世界自然遺産登録に向けて観光客やガイドの人口が増えると予想され、竹富町は西表島における観光ガイドについて、新しく免許制の導入を目指している。

V. 考察、分析

来年夏の世界自然遺産登録に向けて、西表島に移住する人達や観光客、観光ガイドやネイチャーガイドの増加、インフラ整備、公共交通機関の拡大が予想され、希少生物のロードキルだけでなく、西表島の自然環境すべてにおいて悪化するのではないかと懸念されているため、今後様々な条例や対策がとられるだろう。

レンタカー会社では県道は時速 40 km、集落内は時速 30 kmを厳守といわれることから、観光客の事故は少ないのではないだろうか。それに対し県道を走りなれている島民は無意識のうちにスピードが出てしまい、ネコを引いてしまうケースが考えられる。県道にはヤマネコが道路に侵入してくるのを防止するネットやフェンスが設置されているが十分ではない。集落以外の場所では街灯が限りなく少なくヤマネコが急に飛び出してきた場合、制限速度で走っていたとしてもよけるのは困難であると考ええる。

さらに上原港付近の集落、大原港付近の集落の2つをつなぐ県道は約 54 キロメートルあり、直線道路などの単調な道や似たような道が多く走りなれている県民は、集中力の持続が困難になると思われる。

アンケートの結果からヤマネコに遭遇したことのある人、事故を目撃したことがある人は少なく県民にとってヤマネコは、近いようで案外遠い存在なのかと思う。

VI. 今後の展望

今後は事故にあったヤマネコの事故後の生態をモニタリングしヤマネコの移動データがとることができれば事故防止に活かせるのではないかと考えている。また地域住民の意識改革のために様々な情報を発信し、セミナーや勉強会に積極的に参加することも今後の課題として考えられる。

VII. 終わりに

現地でいろいろと教えてくださった野生生物保護センターの北浦さん、アンケートにご協力してくださった地域住民の方に感謝申し上げるとともに、今後西表島のロードキルをはじめとした環境問題の減少を願います。

VIII. 参考文献、調査協力

西表野生生物保護センター 北浦賢治さん

民宿やまねこ

玉盛スーパー

<https://iwcc.jp/>

<https://www.env.go.jp/nature/kisho/hogozoushoku/iriomoteyamaneko.html>

IX. 指導教員コメント

イリオモテヤマネコを代表とする希少生物のロードキル問題は、ヤンバルクイナの場合

と同様、沖縄県における自然保護と観光のあり方にかかわる大事な問題である。またこの問題は西表島など世界遺産登録問題に関わっており、タイムリーなテーマである。それに取り組み、地域住民の車による事故の方が観光客の場合より多いというのを発見したのは、この研究の成果であろう。